



防災訓練

2017/4/13

避難訓練

4月13日(水)の5・6校時目に、防災訓練を実施しました。

生徒たちは、地震発生を想定した「地震発生の緊急放送」を聞くと、机の下にもぐり対角の足をつかみました。その後、避難時に使用する階段と出口を確認しながら野球グラウンドに避難をしました。点呼確認後に、遠山教頭は講評で「今日は地震時の避難を想定しています。ほとんどの生徒が、体育館と部室棟の間を通り避難していました。建物が崩れないか、どれだけ人について行くのか、秩序どおりに動くか、自分の判断で動くかよく考えて行動してください。」と話しました。



講評を述べる
遠山教頭



野球場で話を聞く生徒たち

地震体験(3年)・煙体験(2年)

4月13日(水)の避難訓練終了後に、3学年は、地震体験を行いました。

生徒昇降口前に、起震体験車が置かれ、3年生は震度5から震度7の地震時の揺れの体験をしました。体験した生徒は「こんなに揺れるなんて思いませんでした。」と感想を述べました。

2学年は、自転車置き場近くに設置された煙体験ハウスで火災時の煙がどのようなものなのかを体験しました。



震度7を想定した
揺れを体験中の生徒



煙体験時の様子



救急救命体験学習(1年)

4月13日(水)の避難訓練終了後に、1学年は、本校体育館において千葉市消防局稲毛消防署の協力を得て、1学年360名が人体模型(36体)・AED(36台)を使用して救急救命の体験学習(90分)を実施しました。

1学年360名を36組(1クラス4班構成)に分けて、1組あたり10名に対して講師が1名ずつ付くという形で講習を実施しました。

最初に、千葉市消防局稲毛消防署消防第一課課長補佐石川 敦氏からご挨拶をいただきました。次に、千葉市消防局の救急救命士の飛鋪 宏典氏は、体験学習に先立ち、「困っている人に手を差し伸べて欲しい。声をかけるだけでもいい。一人が少しずつでもいいので優しさを持ってピンチになった人に手を差し伸べてくれるとうれしいです。」と語りました。

体験学習は、4つのパートから構成されており、それぞれのパートについてDVDを使い全体で体験内容を確認してから、各組ごとに講師の先生方主導で人体模型やAEDを使い生徒一人一人が体験学習をしていくという方法で行われました。(各組の講師は、ボランティアで、応急手当インストラクター・千葉市防災普及公社の方々です。)

体験した1年生の椎名さんは「体験してみて、使い方がわからなかったが、わかりやすく指導してもらい今後役立つと思いました。倒れている人がいたら使えるすごくいい体験でした。実際にやってみて体全体を使わないと胸骨圧迫はできませんでした。AEDは、音声で教えてくれたのでできました。」と感想を述べました。

